

I 調査結果の概要

1 平成18年産花きの栽培農家数、作付（収穫）面積及び出荷量の動向

栽培農家数は、切り花類で6万6,800戸、球根類で1,580戸、鉢ものの類で8,880戸、花壇用苗ものの類で6,710戸となっており、前年産に比べてそれぞれ2,100戸（前年産対比3%）、80戸（同5%）、200戸（同2%）、190戸（同3%）減少した。

作付（収穫）面積は、切り花類で1万7,500ha、球根類で575ha、鉢ものの類で2,104ha、花壇用苗ものの類で1,702haとなっており、前年産に比べてそれぞれ410ha（同2%）、22ha（同4%）、41ha（同2%）、26ha（同2%）減少した。

出荷量は、切り花類で49億2,300万本、球根類で1億6,530万球、鉢ものの類で3億10万鉢、花壇用苗ものの類で8億30万本となっており、前年産に比べてそれぞれ9,900万本（同2%）、570万球（同3%）、1,020万鉢（同3%）、2,150万本（同3%）減少した。

表1 平成18年産花きの類別栽培農家数、作付（収穫）面積及び出荷量

類別	栽培農家数	作付(収穫)面積	出荷量	前年産対比		
				栽培農家数	作付(収穫)面積	出荷量
	戸	ha	万本(球・鉢)	%	%	%
切り花類	66 800	17 500	492 300	97	98	98
球根類	1 580	575	16 530	95	96	97
鉢ものの類	8 880	2 104	30 010	98	98	97
花壇用苗ものの類	6 710	1 702	80 030	97	98	97

2 類別・品目別の栽培農家数、作付（収穫）面積及び出荷量の動向

(1) 切り花類

栽培農家数は6万6,800戸で、前年産に比べて2,100戸（前年産対比3%）減少した。

作付面積は1万7,500haで、前年産に比べて410ha（同2%）減少した。これは、生産者の高齢化に伴う労働力事情等による栽培農家の減少や規模縮小があったためである。品目別にみると、ゆりが増加したが、きく、ばら、切り葉、切り枝等が減少した。

出荷量は49億2,300万本で、前年産に比べて9,900万本（同2%）減少した。

なお、品目別にみた出荷量の構成割合は、きくが38%で最も高く、次いでカーネーション及びばらが8%となっている。

図1 切り花類の品目別出荷量割合

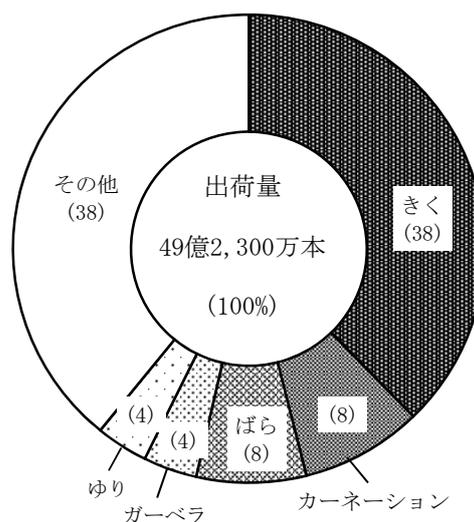


表2 平成18年産切り花類の栽培農家数、作付面積及び出荷量

品目	栽培農家数	作付面積	出荷量	前年産対比			(参考) 1戸当たり	
				栽培農家数	作付面積	出荷量	作付面積	出荷量
	戸	ha	万本	%	%	%	m ²	本
切り花類	66 800	17 500	492 300	97	98	98	2 620	73 700
うち、きく	…	5 715	185 700	…	98	99	…	…
輪ぎく	9 610	3 161	103 400	96	97	98	3 290	107 600
スプレイぎく	3 490	783	28 540	95	96	99	2 240	81 800
小ぎく	11 400	1 771	53 830	94	102	103	1 550	47 200
カーネーション	2 330	437	41 150	95	97	95	1 880	176 600
ばら	1 710	490	36 980	94	96	95	2 870	216 300
りんどう	2 150	499	8 800	93	99	99	2 320	40 900
宿根かすみそう	1 590	289	6 730	94	98	100	1 820	42 300
洋ラン類	1 130	189	2 270	95	97	95	1 670	20 100
スターチス	2 980	250	12 090	105	101	97	839	40 600
ガーベラ	466	103	18 180	91	97	98	2 210	390 100
トルコギキョウ	4 780	449	11 690	97	99	98	939	24 500
ゆり	4 140	879	17 560	95	105	101	2 120	42 400
チューリップ	746	80	7 110	94	99	99	1 070	95 300
アルストロメリア	730	102	6 790	101	99	99	1 400	93 000
切り葉	3 740	672	16 290	96	94	100	1 800	43 600
切り枝	15 600	4 024	24 590	98	96	96	2 580	15 800

注：きくの作付面積及び出荷量は、輪ぎく、スプレイぎく及び小ぎくの合計値である。なお、きくの栽培農家数（実戸数）については調査していない。

図2 切り花類の作付面積と出荷量の推移

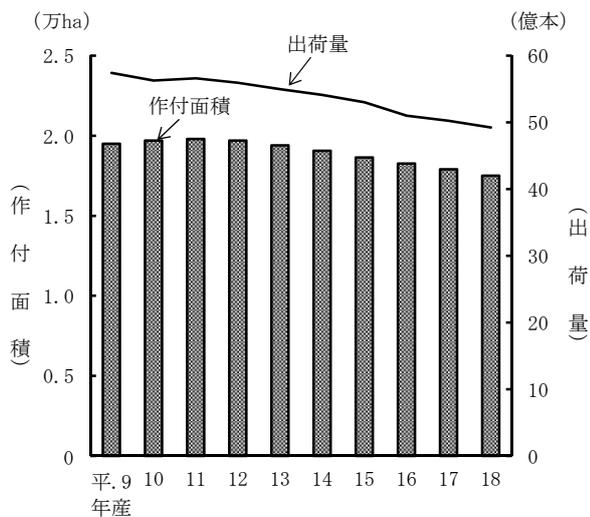
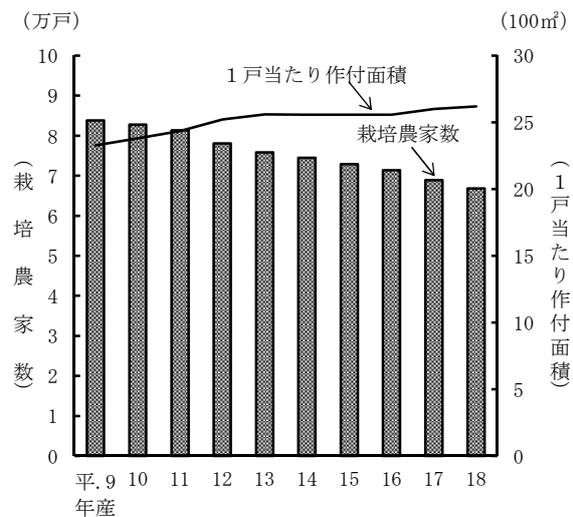


図3 切り花類の栽培農家数等の推移



ア きく

作付面積は5,715haで、前年産に比べて100ha（前年産対比2%）減少した。これは、愛知県、長野県等で規模縮小等があったためである。

出荷量は18億5,700万本で、前年産に比べて1,200万本（同1%）減少した。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が28%で最も高く、次いで沖縄県が17%、鹿児島県が8%の順となっている。

また、品目別にみた出荷量の構成割合は、輪ぎくが56%で最も高く、次いで小ぎくが29%、スプレイぎくが15%の順となっている。

品目別の栽培農家数及び作付面積をみると、栽培農家数はいずれの品目も減少し、作付面積も小ぎくで増加したものの、輪ぎく及びスプレイぎくは減少した。これは、小規模農家の栽培中止等があったためである。

図4 きくの都道府県別出荷量割合

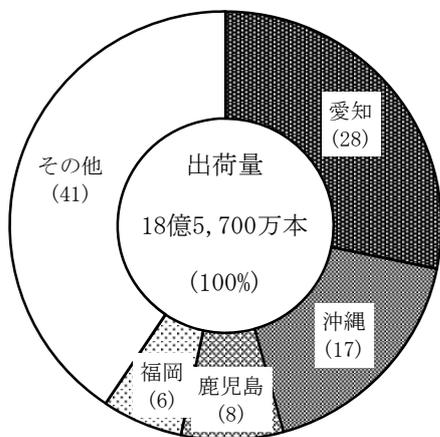


図5 きくの品目別出荷量割合

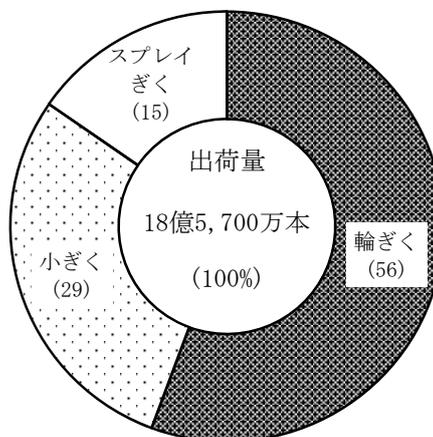


図6 きくの作付面積と出荷量の推移

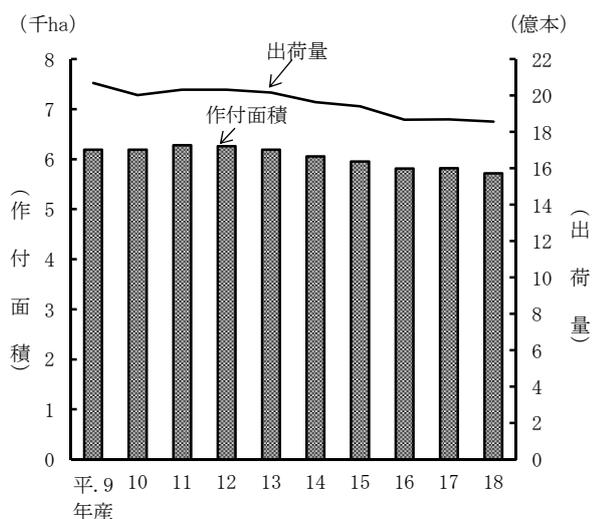


図7 輪ぎくの栽培農家数等の推移

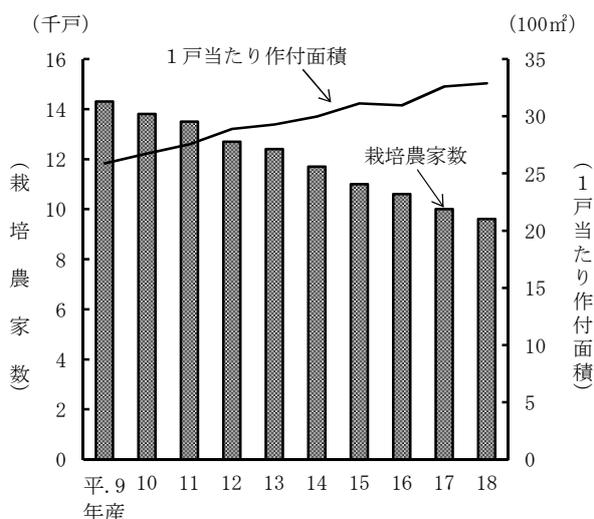


図8 スプレイぎくの栽培農家数等の推移

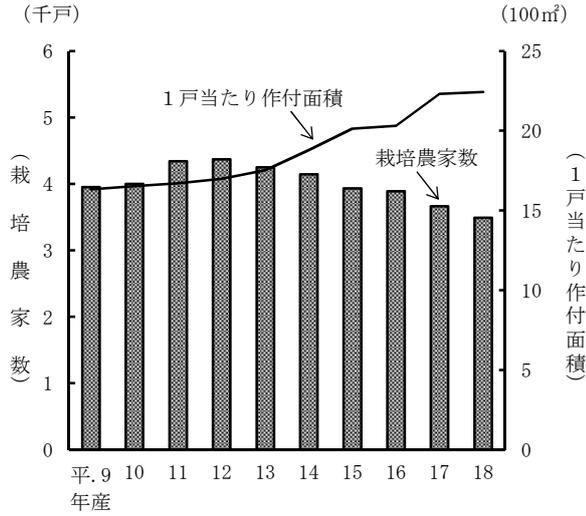
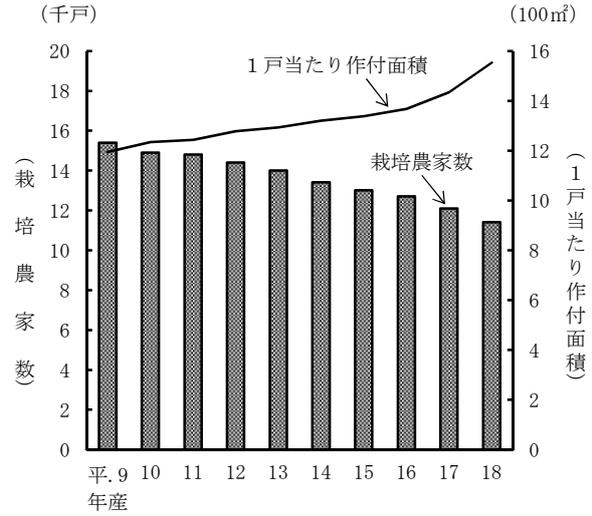


図9 小ぎくの栽培農家数等の推移



イ カーネーション

栽培農家数は2,330戸で、前年産に比べて130戸（前年産対比5%）減少した。

作付面積は437haで、前年産に比べて13ha（同3%）減少した。これは、長野県等で規模縮小等があったためである。

出荷量は4億1,150万本で、前年産に比べて2,350万本（同5%）減少した。これは、長野県、兵庫県等で重油価格高騰の影響により加温を控えたこと等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、長野県が21%で最も高く、次いで愛知県が16%、兵庫県が10%の順となっている。

図10 カーネーションの都道府県別出荷量割合

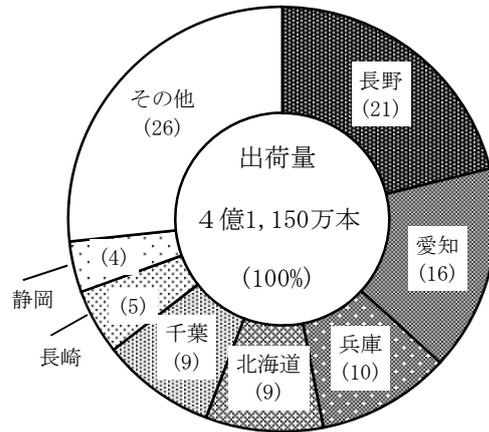


図11 カーネーションの作付面積と出荷量の推移

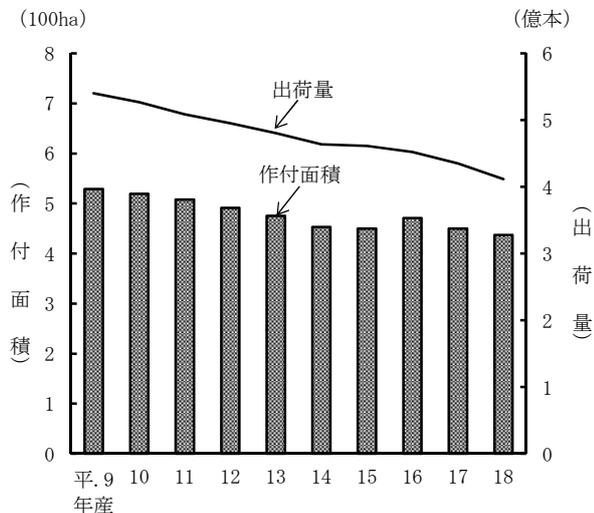
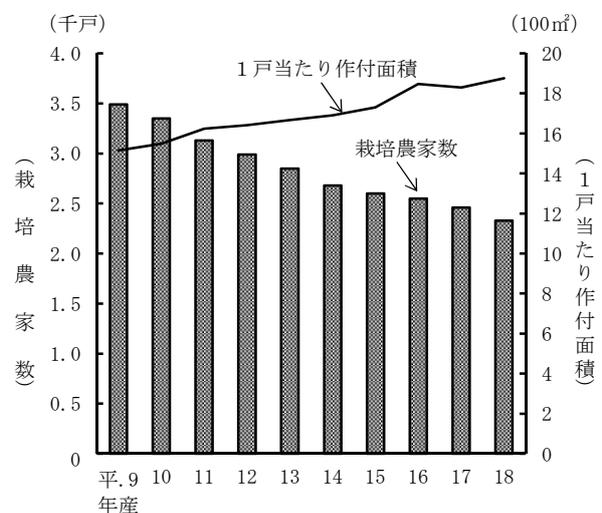


図12 カーネーションの栽培農家数等の推移



ウ ば ら

栽培農家数は1,710戸で、前年産に比べて100戸（前年産対比6%）減少した。

作付面積は490haで、前年産に比べて18ha（同4%）減少した。これは、静岡県、愛知県等で栽培農家の減少等があったためである。

出荷量は3億6,980万本で、前年産に比べて2,090万本（同5%）減少した。これは、静岡県等で、重油価格高騰の影響により加温を控えたこと等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が15%で最も高く、次いで静岡県が9%、福岡県が7%の順となっている。

図13 ばらの都道府県別出荷量割合

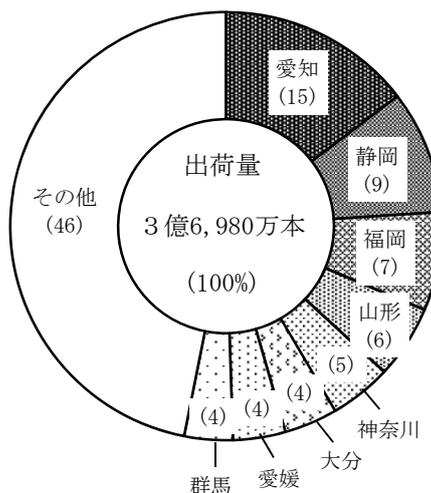


図14 ばらの作付面積と出荷量の推移

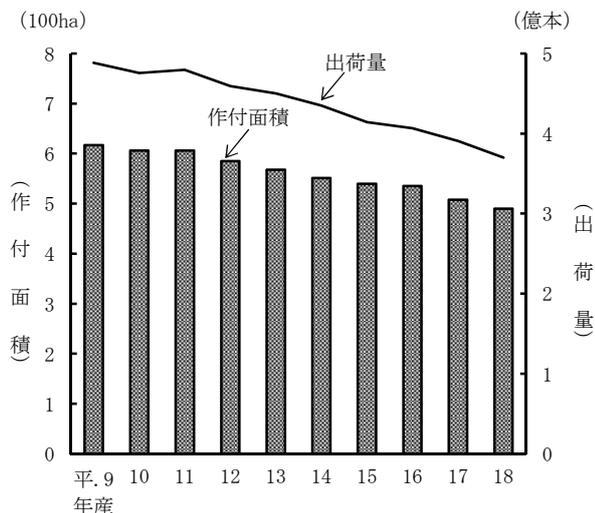
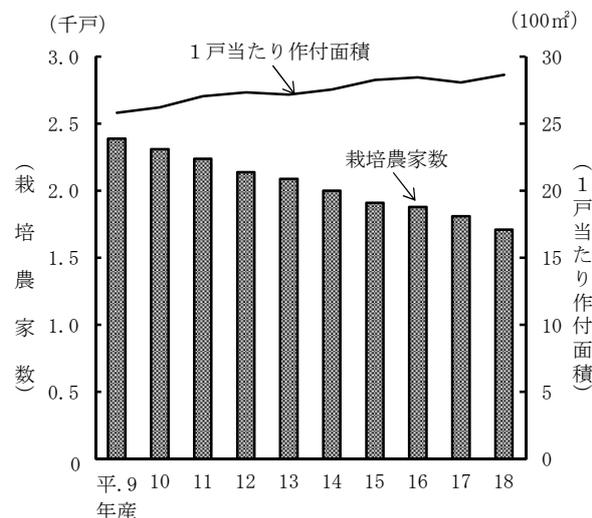


図15 ばらの栽培農家数等の推移



エ ゆ り

栽培農家数は4,140戸で、前年産に比べて210戸（前年産対比5%）減少した。

作付面積は879haで、前年産に比べて38ha（同5%）増加した。これは、埼玉県、高知県等で規模拡大等があったためである。

出荷量は1億7,560万本で、前年産に比べて160万本（同1%）増加した。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、埼玉県が14%で最も高く、次いで高知県が11%、新潟県が10%の順となっている。

図16 ゆりの都道府県別出荷量割合

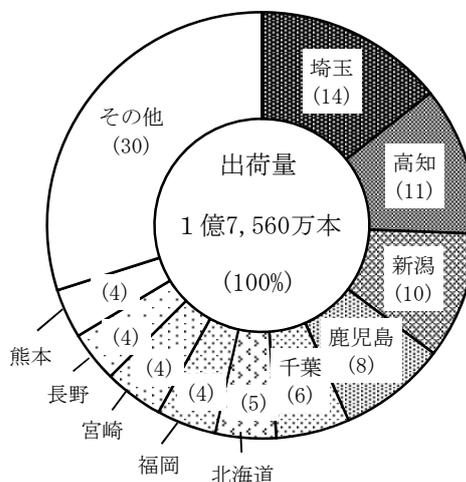


図17 ゆりの作付面積と出荷量の推移

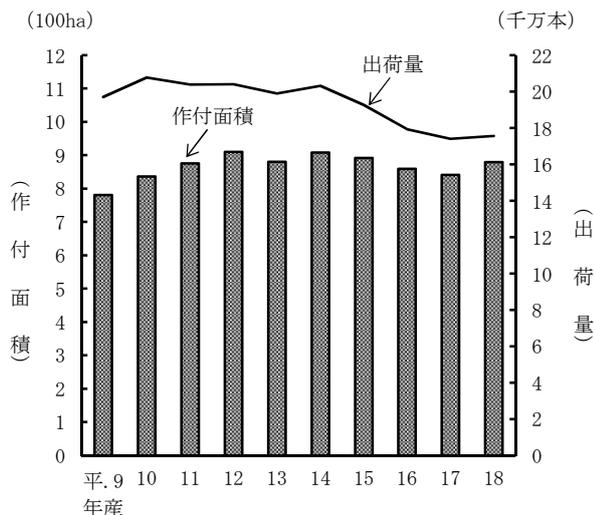
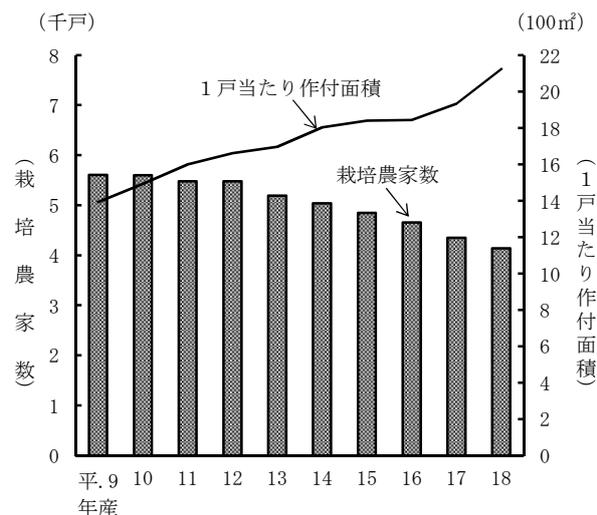


図18 ゆりの栽培農家数等の推移



(2) 球根類

栽培農家数は1,580戸で、前年産に比べて80戸（前年産対比5%）減少した。

収穫面積は575haで、前年産に比べて22ha（同4%）減少した。品目別にみると、グラジオラスが契約栽培の増加等により増加したが、ゆり、チューリップ及びフリージアが減少した。

出荷量は1億6,530万球で、前年産に比べて570万球（同3%）減少した。

表3 平成18年産球根類の栽培農家数、収穫面積及び出荷量

品目	栽培農家数	収穫面積	出荷量	前年産対比			(参考)1戸当たり	
				栽培農家数	収穫面積	出荷量	収穫面積	出荷量
	戸	ha	万球	%	%	%	m²	球
球根類	1 580	575	16 530	95	96	97	3 640	104 600
うち、ゆり	351	96	1 390	83	96	104	2 740	39 600
チューリップ	421	261	4 980	91	93	93	6 200	118 300
グラジオラス	220	35	2 340	112	121	87	1 580	106 400
フリージア	101	31	3 040	109	96	116	3 060	301 000

図19 球根類の収穫面積と出荷量の推移

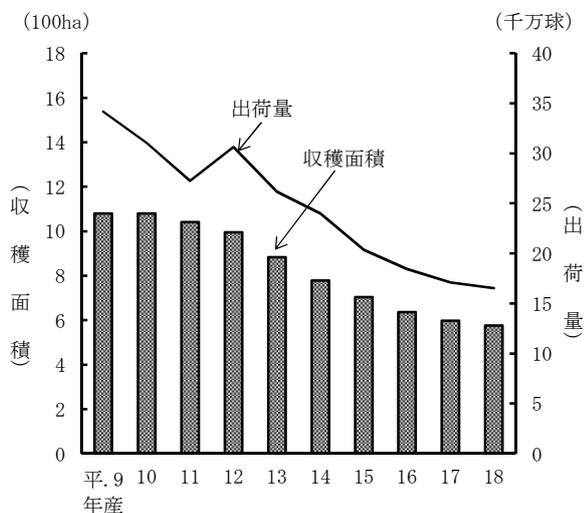
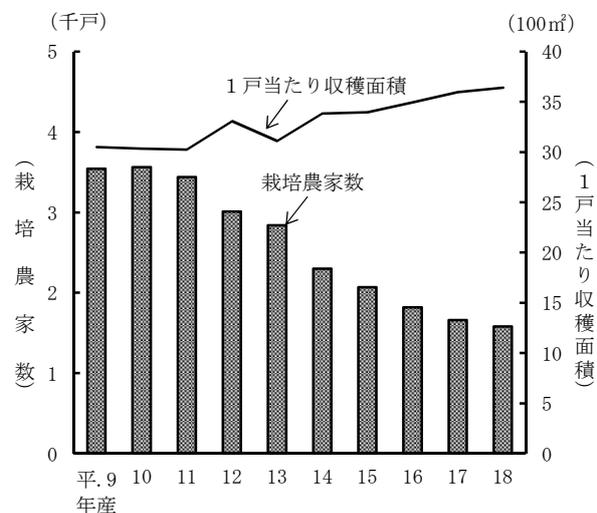


図20 球根類の栽培農家数等の推移



ア ゆり

栽培農家数は351戸で、前年産に比べて71戸（前年産対比17%）減少した。

収穫面積は96haで、前年産に比べて4ha（同4%）減少した。

出荷量は1,390万球で、前年産に比べて50万球（同4%）増加した。これは、鹿児島県等で病害の影響により作柄の悪かった前年産に比べて出荷量が増加したためである。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、鹿児島県が54%で最も高く、次いで新潟県が29%、北海道が8%の順となっている。

図21 ゆりの都道府県別出荷量割合

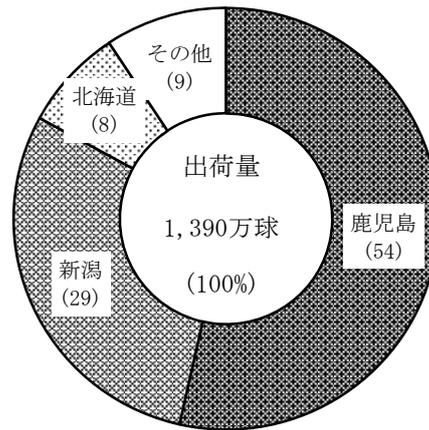


図22 ゆりの収穫面積と出荷量の推移

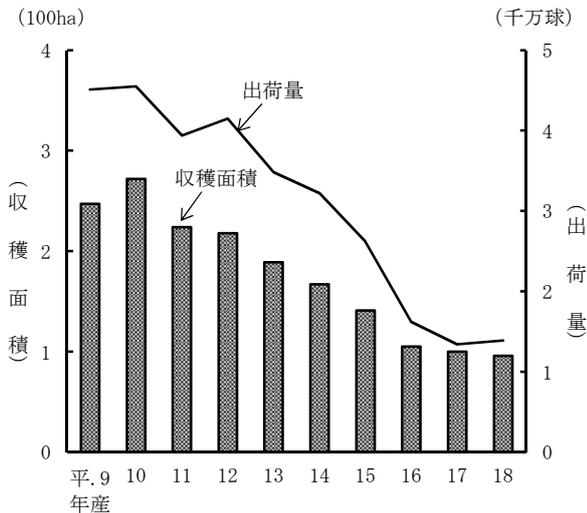
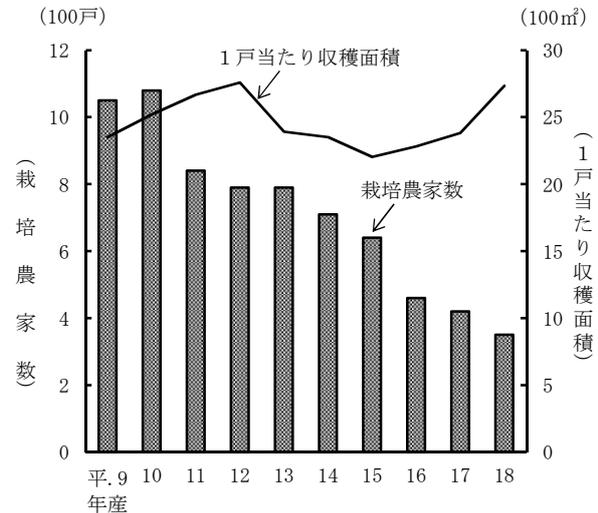


図23 ゆりの栽培農家数等の推移



イ チューリップ

栽培農家数は421戸で、前年産に比べて43戸（前年産対比9%）減少した。

収穫面積は261haで、前年産に比べて21ha（同7%）減少した。これは、富山県で栽培農家の減少等があったためである。

出荷量は4,980万球で、前年産に比べて370万球（同7%）減少した。これは、新潟県で初期生育の遅れ等から球根肥大量が十分に確保できなかったためである。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、富山県が53%で最も高く、次いで新潟県が45%の順となっており、この2県で全国の98%を占めている。

図24 チューリップの都道府県別出荷量割合

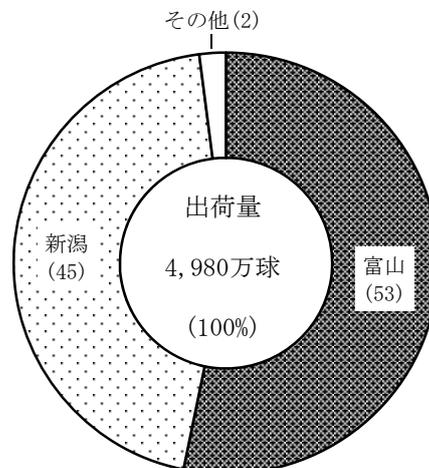


図25 チューリップの収穫面積と出荷量の推移

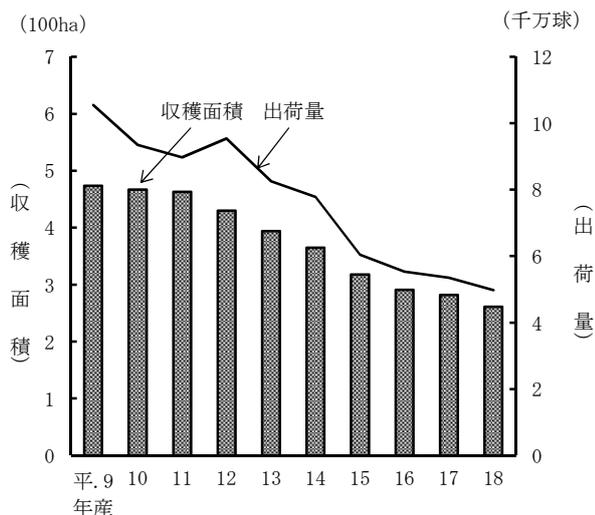
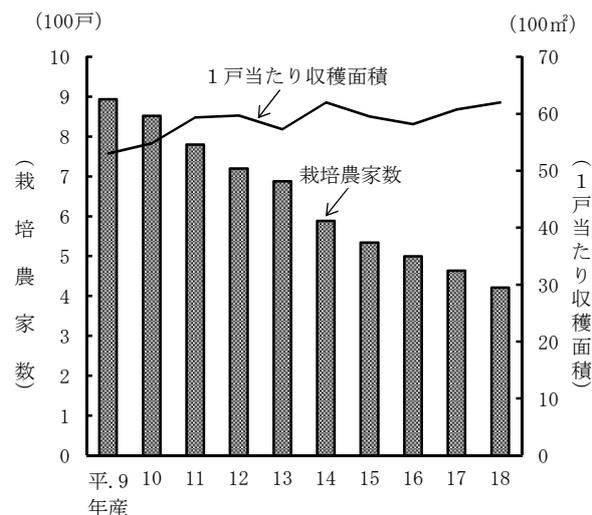


図26 チューリップの栽培農家数等の推移



(3) 鉢ものの類

栽培農家数は8,880戸で、前年産に比べて200戸（前年産対比2%）減少した。

収穫面積は2,104haで、前年産に比べて41ha（同2%）減少した。品目別にみると、プリムラ類、花木類が増加したが、洋ラン類、サボテン及び多肉植物、観葉植物等が減少した。

出荷量は3億10万鉢で、前年産に比べて1,020万鉢（同3%）減少した。

表4 平成18年産鉢ものの類の栽培農家数、収穫面積及び出荷量

品目	栽培農家数	収穫面積	出荷量	前年産対比			(参考) 1戸当たり	
				栽培農家数	収穫面積	出荷量	収穫面積	出荷量
	戸	ha	万鉢	%	%	%	m ²	鉢
鉢ものの類	8 880	2 104	30 010	98	98	97	2 370	33 800
うち、シクラメン	1 720	232	2 240	96	99	101	1 350	13 000
プリムラ類	841	65	1 440	93	103	102	776	17 100
ベゴニア類	403	32	540	110	99	96	792	13 400
洋ラン類	...	268	1 940	...	96	97
シンビジウム	491	91	321	95	91	93	1 840	6 540
デンドロビウム	226	28	260	93	95	93	1 230	11 500
ファレノプシス	405	71	642	98	99	98	1 740	15 900
その他の洋ラン類	732	79	717	100	102	99	1 080	9 800
サボテン及び多肉植物	382	59	1 980	94	93	98	1 530	51 800
観葉植物	1 550	351	5 570	96	97	97	2 260	35 900
花木類	2 660	464	5 040	96	101	91	1 740	18 900

注： 洋ラン類の収穫面積及び出荷量は、シンビジウム、デンドロビウム、ファレノプシス及びその他の洋ラン類の合計値である。なお、洋ラン類の栽培農家数（実戸数）については調査していない。

図27 鉢ものの類の収穫面積と出荷量の推移

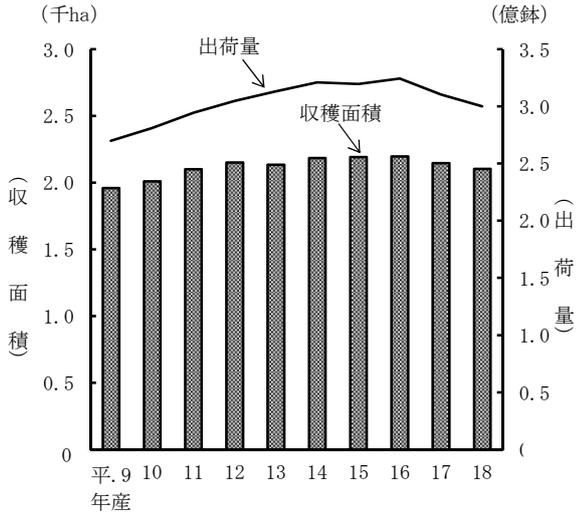
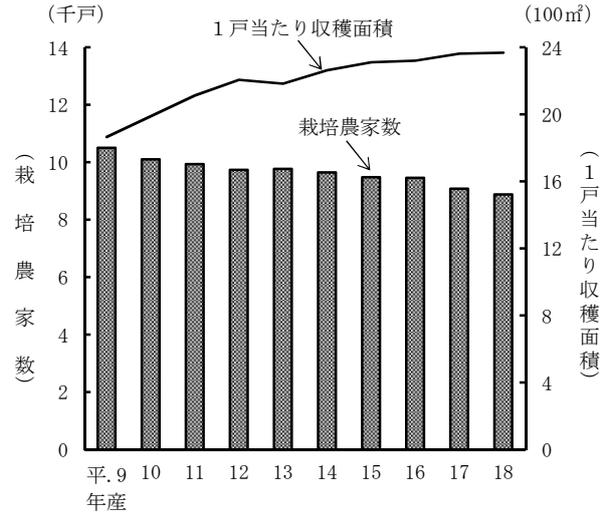


図28 鉢ものの類の栽培農家数等の推移



ア シクラメン

栽培農家数は1,720戸で、前年産に比べて70戸（前年産対比4%）減少した。

収穫面積は232haで、前年産に比べて3ha（同1%）減少した。これは、愛知県等で栽培農家の減少等があったためである。

出荷量は2,240万鉢で、前年産に比べて20万鉢（同1%）増加した。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が13%で最も高く、次いで長野県が12%となっている。

図29 シクラメンの都道府県別出荷量割合

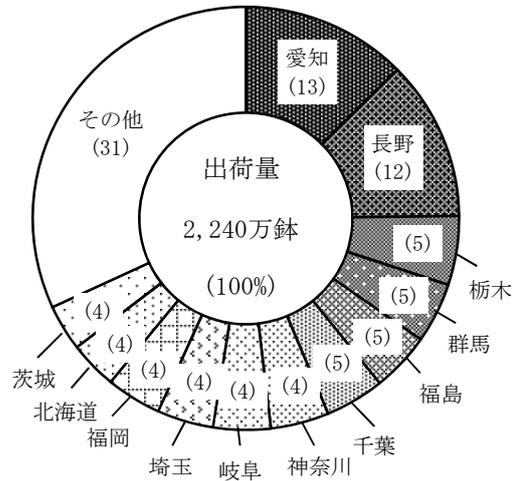


図30 シクラメンの収穫面積と出荷量の推移

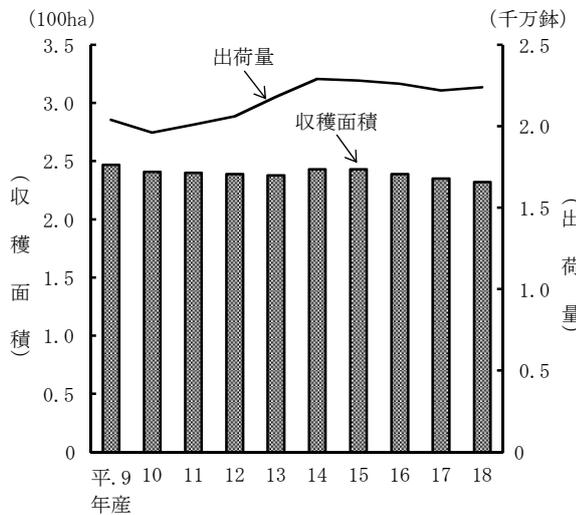
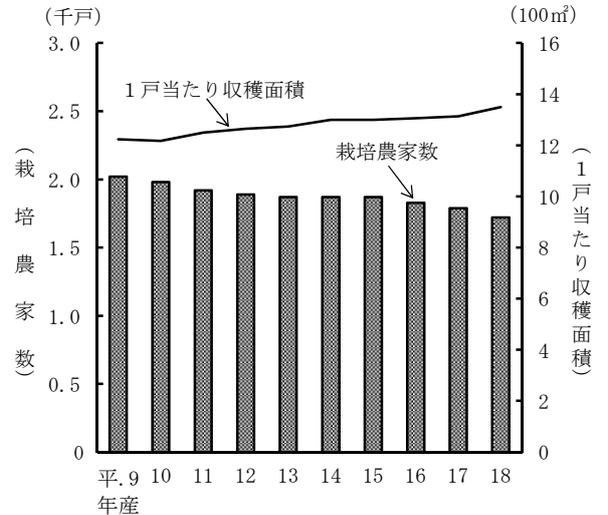


図31 シクラメンの栽培農家数等の推移



イ 洋ラン類

収穫面積は268haで、前年産に比べて10ha（前年産対比4%）減少した。これは、愛知県、徳島県等で栽培農家の減少等があったためである。

出荷量は1,940万鉢で、前年産に比べて70万鉢（同3%）減少した。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が29%で最も高く、次いで福岡県が11%、静岡県が6%の順となっている。

また、品目別にみた出荷量の構成割合は、ファレノプシスが33%、シンビジウムが17%、デンドロビウムが13%となっている。

図32 洋ラン類の収穫面積と出荷量の推移

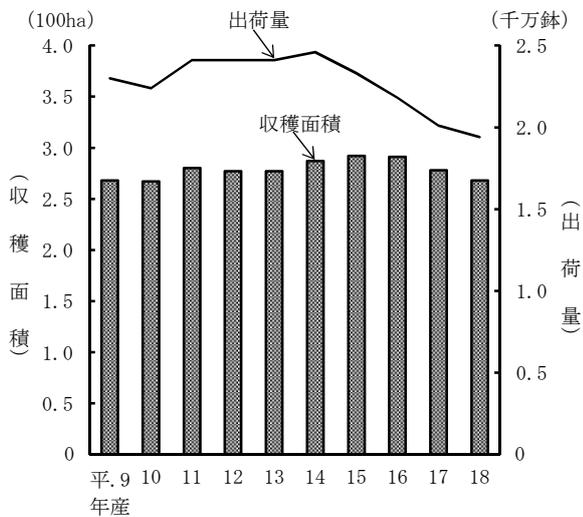


図33 洋ラン類の都道府県別出荷量割合

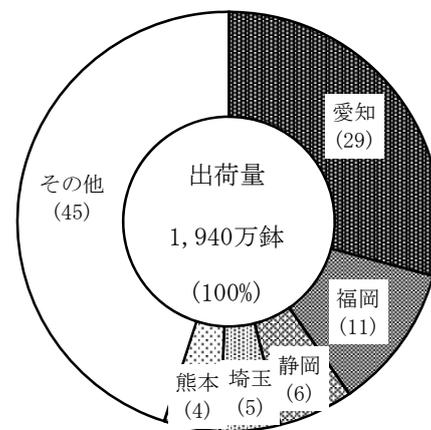


図34 シンビジウムの栽培農家数等の推移

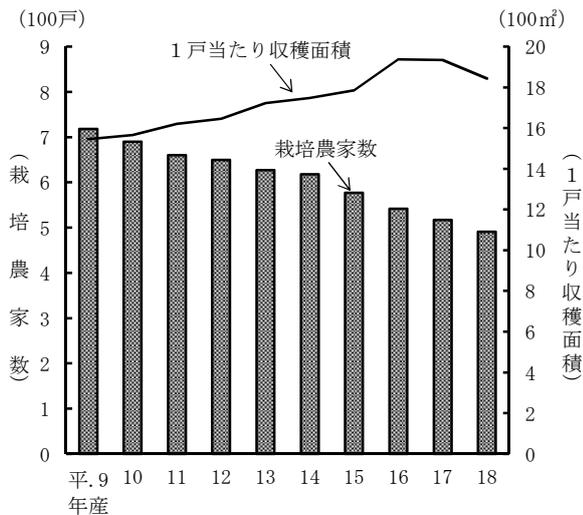
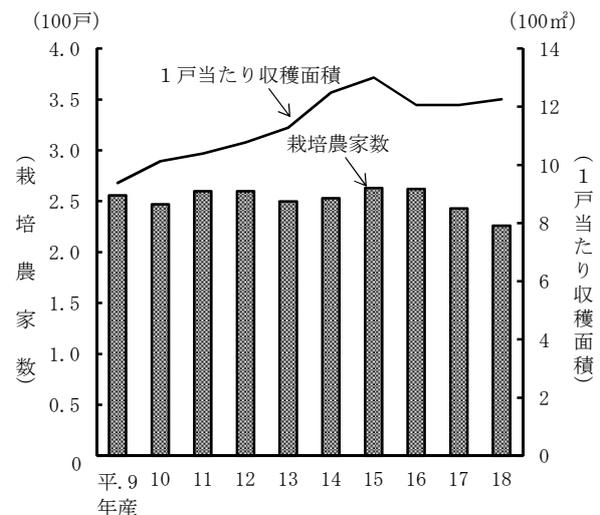


図35 デンドロビウムの栽培農家数等の推移



(4) 花壇用苗もの類

栽培農家数は6,710戸で、前年産に比べて190戸（前年産対比3%）減少した。

作付面積は1,702haで、前年産に比べて26ha（同2%）減少した。品目別にみると、にちにちそうが増加したが、パンジー、サルビア、マリーゴールド及びペチュニアが減少した。

出荷量は8億30万本で、前年産に比べて2,150万本（同3%）減少した。

表5 平成18年産花壇用苗もの類の栽培農家数、作付面積及び出荷量

品目	栽培農家数	作付面積	出荷量	前年産対比			(参考) 1戸当たり	
				栽培農家数	作付面積	出荷量	作付面積	出荷量
	戸	ha	万本	%	%	%	m ²	本
花壇用苗もの類	6 710	1 702	80 030	97	98	97	2 540	119 300
うち、パンジー	3 710	339	18 560	98	96	96	914	50 000
サルビア	2 000	59	2 450	94	94	92	296	12 300
マリーゴールド	2 340	82	3 500	99	93	93	352	15 000
ペチュニア	2 150	109	5 350	99	94	93	507	24 900
にちにちそう	1 150	41	1 680	106	106	102	355	14 600

図36 花壇用苗もの類の作付面積と出荷量の推移

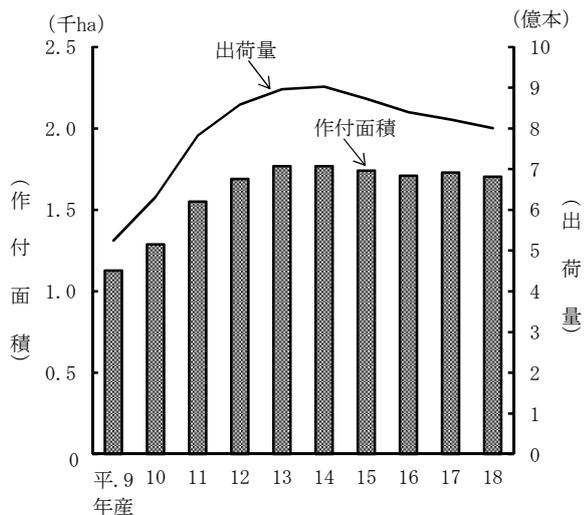
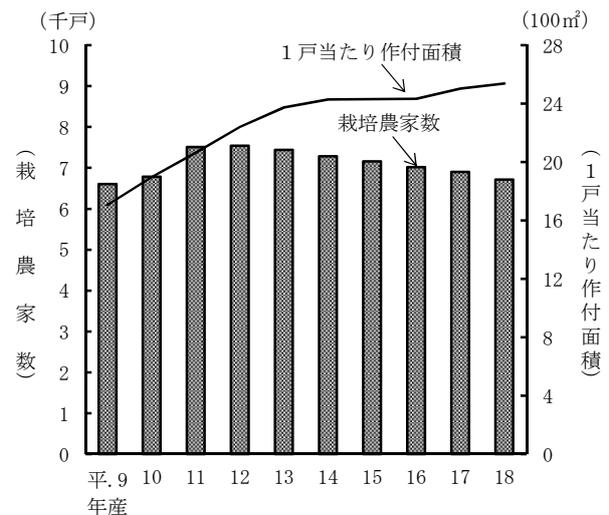


図37 花壇用苗もの類の栽培農家数等の推移



ア パンジー

栽培農家数は3,710戸で、前年産に比べて80戸（前年産対比2%）減少した。

作付面積は339haで、前年産に比べて14ha（同4%）減少した。これは、千葉県、愛知県等で規模縮小や他品目への転換等があったためである。

出荷量は1億8,560万本で、前年産に比べて780万本（同4%）減少した。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県及び千葉県が7%で最も高く、次いで埼玉県が6%、神奈川県が5%の順となっている。

図38 パンジーの都道府県別出荷量割合

